

世界文化遺産

明治日本の産業革命遺産を次世代へ

2018年の明治維新150年を機に、NHK大河ドラマ「西郷どん」の放映が決定！

その西郷を登用して活躍の機会を与えた第11代薩摩藩主島津斉彬。彼が興した集成館事業は今日の産業国家日本の礎となり、全国に富国強兵を広げる原点となりました。斉彬をはじめ、当時の人々の高い志と先見の明には驚くばかりです。それらが世界文化遺産に登録されて1年8ヶ月。県では、この集成館事業を多くの方々に広く理解していただくため、さまざまな普及活動を行っています。

その世界的な価値に迫り、次世代へ継承していくための取り組みをご紹介します。



旧鹿児島紡績所技師館[異人館]



旧集成館 [反射炉跡]



寺山炭窯跡



関吉の疎水溝

旧集成館

日本の近代工場発祥の地

19世紀、欧米列強が次々とアジアに進出する中、アヘン戦争で清(中国)がイギリスに敗れると、幕府や諸藩に植民地化の危機感が広まってきました。こうした中、1851年に薩摩藩主になった島津斉彬は、富国強兵、殖産興業による強く豊かな国づくりをめざし、集成館事業を開始。西洋から取り寄せた書物を参考に、在来の技術を駆使して、鉄製大砲の製造や洋式船の建造に挑戦し、試行錯誤の末、近代化を進めました。

斉彬の亡き後、久光・忠義に引き継がれ、西洋から取り寄せた蒸気機関による洋式機械工場群が礎に造られ、最盛期には1,200人が働く、日本初の工業地帯となりました。鹿児島で行われた、この先駆的な取り組みは、その後の日本の急速な産業化の礎となったのです。



寺山炭窯跡

事業の燃料・原料を支えた木炭の供給地

当時ヨーロッパでは、鉄を作る原料の一つとして石炭が使用されていましたが、石炭を産出しない薩摩藩では、それを補うために良質の木炭が必要でした。鉄を溶かして大砲の筒を作る反射炉で強力な火力を得るためです。

寺山に残された炭窯は、集成館の工場群に大量の木炭を供給するために築かれ、その大きさは世界に類を見ないといわれています。



関吉の疎水溝

事業の動力を支えた水の供給地

工業の動力として蒸気機関が使用されていたヨーロッパに対し、薩摩藩では蒸気機関に替わる動力として、水車を利用されました。

斉彬は1852年、当時関吉から磯の御殿に引かれていた水路を大幅に改修し、集成館へ動力として大量の水を送り込みました。水車から得た動力は製鉄炉に大量の風を送り込んだり、大砲の筒に穴を開けたりするなど、鉄製大砲製造を支えたのです。取水口では岩盤を加工し、巧みに川から水路に取水していました。水路はそこから約6キロメートル、平均勾配0.077度とほぼ水平な傾斜で、集成館背後の台地まで建設されており、薩摩藩の高い技術力がうかがえます。

集成館とそれを支えた水車動力・燃料

(イメージ図)

日本を強く豊かな国に!

島津 斉彬



日本近代化の礎を築いた名君

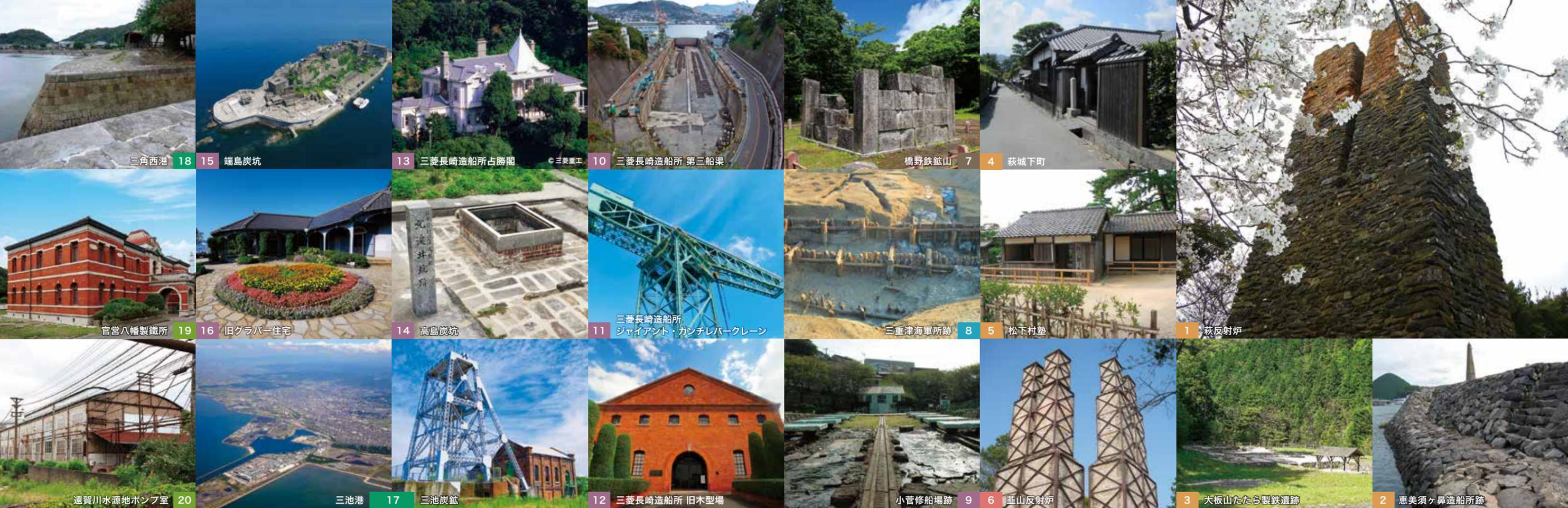
しまづ なりあきら
島津 斉彬

第11代薩摩藩主。強く豊かな国づくりをめざして集成館事業を興し、製鉄・造船・ガラス工芸・近代薩摩焼の生産など、さまざまな取り組みを行った。



尚古集成館蔵

旧集成館 [機械工場]
(現・尚古集成館本館)



16 旧グラバー住宅 (船・石炭)
1863年に建設されたトーマス・グラバーの住居で、現存する最も古の木造洋風建築。グラバーは、日本の造船・石炭といった主要産業の近代化に貢献した。

三池

17 三池炭鉱・三池港 (石炭)
高島炭坑に次ぎ、日本で2番目に近代化された炭坑。三池港は貿易港として、三池炭を上海や香港に輸出した。

18 三角西港 (石炭)
1887年に明治政府の殖産興業政策の下で建設された近代貿易港。明治三大築港のひとつで、初期の三池炭輸出の一端を担った。

八幡

19 官営八幡製鉄所 (鉄)
明治政府が建設した官営製鉄所。アジアで成功した初の本格的な銑鋼一貫製鉄所で、日本経済の礎を築いた。

20 遠賀川水源ポンプ室 (鉄)
生産倍増を目指す八幡製鉄所の第一期拡張計画に伴い、製鉄に必要な工業用水を確保するため、1910年に遠賀川東岸に建設された。

10 三菱長崎造船所 第三船渠
11 三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
12 三菱長崎造船所 旧木型場

明治後期、三菱合資会社時代に竣工した施設群。陸用・船用蒸気タービンの生産、大型船の設計、製造、組立てまで本工場内で可能になり、近代造船の土台が確立した。船渠とクレーンは、約100年を経た今も、現役で稼働している。

13 三菱長崎造船所 占勝閣 (船)
長崎造船所長の邸宅として1904年に完成したが、所長宅としては使用されず、迎賓館として使用された。

14 高島炭坑 (石炭)
佐賀藩とグラバーの共同事業により、1869年に日本で初めて蒸気機関を導入した炭坑。

15 端島炭坑 (石炭)
三菱により開発され、1891年より出炭。採炭量の増加に伴い、採炭により出てくるポタ(不純物)で島の周囲を埋立て、島を拡張した日本初の本格的な海洋炭坑。「軍艦島」の名前で知られる。

葦山

6 葦山反射炉 (鉄)
アヘン戦争以降、海防への危機感から、鉄製大砲を铸造するため、江戸幕府直営の大砲铸造所として1857年に築造。反射炉本体は日本で唯一完全な形で現存。

釜石

7 橋野鉄鉱山 (鉄)
オランダ技術書を基に伝統的技術で洋式高炉を建設。1858年に鉄の連続生産に成功した、現存する日本最古の洋式高炉跡。

佐賀

8 三重津海軍所跡 (船)
長崎防衛の任にあった佐賀藩が海軍の人材育成を行った拠点。長崎海軍伝習所で学習した技術を導入し、洋式船の修繕、建造に試行錯誤で挑戦した、日本最古のドライドック(船渠)が地下遺構として残る。

長崎

9 小菅修船場跡 (船)
薩摩藩とグラバーにより1869年に建設された洋式ドック。当時、船の機関の修理しかできなかった日本が、この完成により蒸気動力で船を曳き揚げ、船底を修理することが可能となった。

萩

1 萩反射炉 (鉄)
海防要地を統治した萩藩が、独力で建造に挑み、1856年に試験炉として建設された。西洋技術への試行錯誤の取り組みを物語っている。

恵美須ヶ鼻

2 恵美須ヶ鼻造船所跡 (船)
1850年代後半に2隻の洋式帆船を建造した萩藩の造船所。

萩城下町

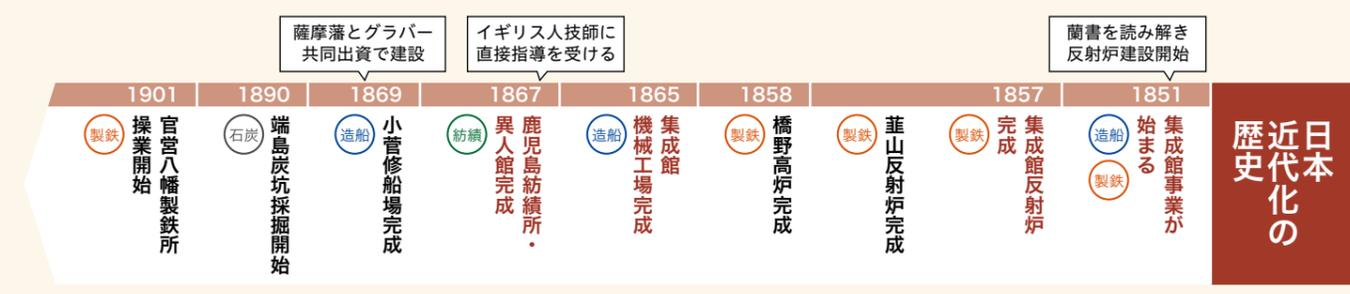
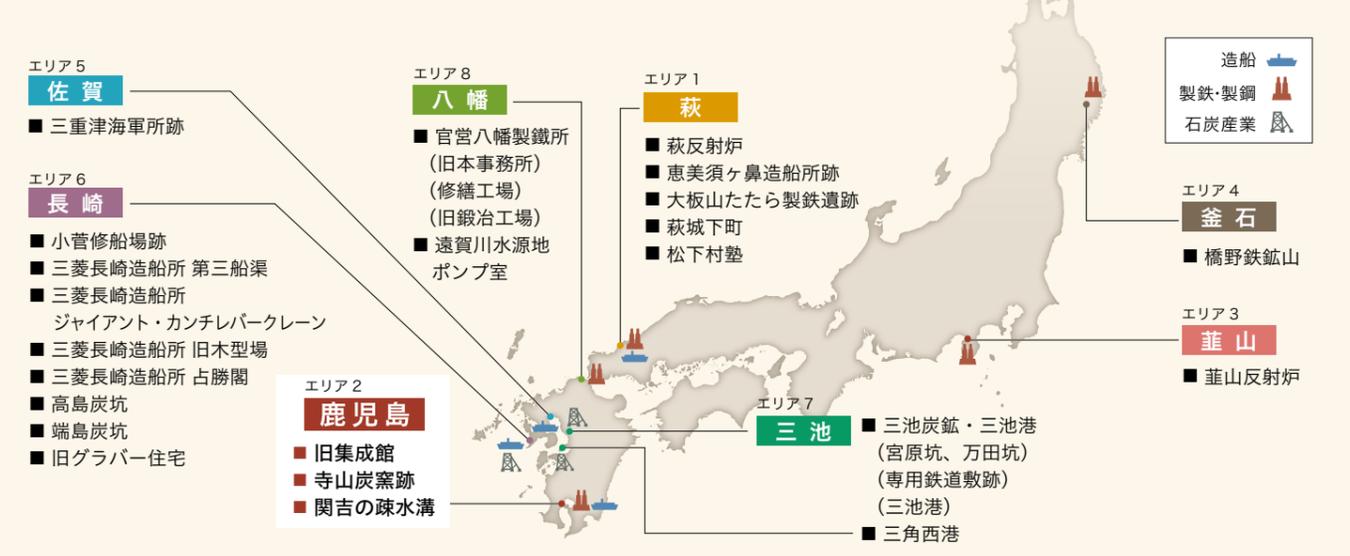
産業革命の担い手を育成した萩(長州)藩が、幕末の産業化を目指した時代背景を象徴する町。

松下村塾

幕末に萩(長州)藩の兵学者、吉田松陰が主宰した私塾。松陰の教えは、海防の必要性や、産業国家の礎を担う志を育み、やがて産業化や明治維新を牽引した多くの人物を輩出した。

明治日本の産業革命遺産 8県11市23の構成資産

明治日本の産業革命遺産は8県11市に及び全23の構成資産からなり、「幕末から明治期のわずか50余年という短い期間に成し遂げられた、重工業分野における日本の急速な産業化」のプロセスが世界遺産として評価されました。



近代化の歴史